

2013 年度学術交流支援資金（国内外でのインターンシップ、フィールドワーク科目支援）の報告

科目名：グローバル環境システム

研究課題：優れた環境取組みを展開する自治体と SFC との研究・教育に関する連携基盤の整備

代表者氏名：小林光（政策・メディア研究科教授）

低環境負荷型の新しい経済社会の建設のためには、地域における再生可能エネルギーその他の地域資源の活用が不可欠であり、このテーマに関する大学・大学院における教育研究においては、現地においてその過程のつぶさな観察や参画が必須となる。しかしながら、そのようなフィールドへの参加は容易ではない。

そこで、本資金を活用し、優れた環境取組みを行う自治体現地において、学生による参与観察などが可能となることを目指し、こうした自治体との連携を強化することとし、以下の活動を行った。

2013 年度には、昨年度来本資金を活用して連携を強化していた水俣において、EBA（evidence based approach）のアイディアの下、本塾教員が引率し、ASEAN 地域の大学院生多数を水俣で学習させるに至ったが、この水俣で、10 月、世界各国から外交担当者を集めて、国連主導で交渉されてきた水銀条約の署名式が行われたところ、小林がこれに出席し、各国の公害対策へのニーズを聴取した。このことにより、本塾が留学生を我が国のフィールドにて調査研究させる上で有用な情報を得ることができた。また、今後、水俣を、国際的に開かれた環境研究の恒久的なフィールドとして行く場合に必要な施設などを検討するため、水俣市の職員と共に、本塾の山形・鶴岡キャンパスを視察した。

さらに、環境に配慮した形での施設整備を考える上で有用な機会として、私立大学環境保全協議会の夏季の総会・取組み報告会に学生を派遣し、大学施設面での環境対策についてサーベイを行った。

水俣と同様に優れた環境取組みを行っている北九州市においても、学生が、現地の取組みに即した調査研究を行うことが有益なので、小林及び学生 2 人をもって、同市の東田地区のスマートグリッド及び城野地区のエコシティ開発などに関して調査を行った。

以上のように、本資金を活用し、教育研究に供し得る現場フィールドの開拓、整備が各地大いに進捗した。

以上